

**【全体】**

着地の評価について、第3四半期単体の営業利益は310億円だが、社内計画と比較してどうだったのか。

3ヶ月の計画は公表していないが、為替影響を除くとほぼ想定どおり。

第4四半期で営業利益を250億円出せば、年間営業利益1,250億円を達成できるが、その確度について伺いたい。

市場・事業ごとにプラスの要因・マイナスの要因があり、楽観視できない状況にあるものの1,250億円は目指したい。

**【新興国二輪車】**

来年の二輪車の各市場について整理したい。

ベトナムは、今年厳しい戦いとなっているものの、体制も変えて巻き返しを図っている。台湾はEV車を得意とするGogoroの伸張が続いている。我々もGogoroとの提携モデルを入れることでガソリン車とEV車の両方で対応していく。インドネシアは高価格帯、特にN MAXの好調さが持続している。フィリピンは総需要の伸びが鈍化してきたが、市場自体は堅調。ロジスティックスの改善は進んでいるので市場全体が伸びれば当社も伸ばせるだろう。

**【マリン】**

8月、9月の船外機の輸出が落ちてきている。これはどういった要因なのか。

輸出は確かに前年同月比で減っている。主な要因は、昨年増産対応を取っており、バックオーダーも抱える中で数量を多く出していたという点。今上期もその状況が続いてきたが、この第3四半期に正常化してきた。

大型船外機の出荷台数は、年率数パーセントで伸張しているが、この傾向は今後も変わらないか。

大型船外機の需要はリーマンショックのレベルを超え、また、下の馬力帯からのシフトが継続している。150馬力以下の船外機の需要は少し弱いですが、先月のフォートローダーデールのボートショーでも、200馬力以上の大型船外機の引きが強かったと聞いている。200馬力以上はソルトウォーターだけでなく、ポンツーンボートのようなフレッシュウォーターでも使用されていることも、大型シフトに寄与している。北米の株価や経済環境が強いままであれば、この継続は見込める。

**【ロボティクス】**

既存のマウンター市場は見通しが難しいが、何か変化している点があったら伺いたい。

半導体系で需要の一部が戻ってきていると言われており、当社も同様の状況。5Gの基地局やCASE対応のデバイスに戻りの兆しが現れてきている。

来期について、シェアの回復とマーケットの回復のどちらの影響が強いか伺いたい。

シェアについては、全体的に市況が悪化しており、我々が特に負けているわけではない。ただし、ヤマハモーター・ロボティクス・ホールディングスを設立したのはトータルソリューションを提供していくため。それにより今まで取れていなかったお客様を取っていき、将来的にシェアを伸ばしていく戦略。

**【金融サービス】**

一時的要因がなければ、来期どれくらいの営業利益を期待できるのか。

キャプティブをはじめて約20年が経ち、ノウハウが蓄積されてきたので高収益は維持できる。来年の見通しを述べることは難しいが、順調に債権が積みあがれば利益も出せるだろう。

以上